

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	一次予防事業普及啓発・支援事業			事業コード	2411
所属コード	153000	課等名	健康福祉課	係名	健康推進グループ
課長名	佐藤 政敏	担当者名	藤澤 昌子	内線番号	4400-140
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード	2
予算費目名	介護保険費特別会計 (06) 03 款 01 項 04 目 001 一次予防事業普及啓発・支援事業費			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 18 年度～	
根拠法令等	介護保険法			

### (2) 事務事業の概要

在宅高齢者が健康で過ごすことができるように、健康の基本である食生活についての教室を開催し区民の健康増進を図る。

### (3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

玉山区では高齢者世帯が多く、食事の準備をしている人も多かったため、平成 18 年度から介護予防の一般高齢者施策として開始した。

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

玉山 4 地区各 2 会場で開催している。平成 23 年度は、7 会場で 147 人の参加であった。

平成 23 年度は 6 会場でアンケート調査を実施し 116 名のうち 114 名から回答があった。

参加者は 70 代 (51.7%)、80 代 (27.6%) で 79.3%を占めている。

高齢者世帯が多いためか、アンケートでは、「食事の準備は自分でしている」と答えた人が、毎日と時々を含めると 88 名 (76.7%) であった。健康づくりのために実践していることは、食生活では、塩分に気をつけていると答えた人は 91 名 (78.4%)、3 食規則正しく食べるようにしている 97 名 (83.6%)、甘い食べ物や飲み物はほどほどにしている 56 名 (67.2%)、運動については、意図的に体を動かすように心がけていると答えた人が 82 名 (70.7%) であり、それぞれの人が健康づくりに取り組んでいることが分かった。

## 2 事務事業の実施状況 (Do) . . . . .

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市民

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 参加者数	人	164	134	160	147	160
B						
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

「認知症は食事で予防しよう」をテーマに区内7会場で講話と調理実習を行った。  
 保健推進員の協力で地域への周知は、健康相談のお知らせと共に地区回覧にて参加者を  
 募り講話と調理実習を行った。6会場でアンケート調査を実施した。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 開催回数	回	10	8	8	7	8
B						
C						

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

高齢者の低栄養を防ぎ、高齢者が地域で健康に暮らすことができる。  
 自主的に健康づくりに取り組む人たちを増やす。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 参加者数	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	人	164	134	160	147	160
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

## (7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	104	87	88	0
	⑤その他( )	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	104	87	88	87
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	120	100	100	99.5
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	480	400	400	398
計	トータルコスト A+B	千円	584	487	488	485
備考 栄養士 4h×5回=20時間, 保健師 4h×8回=32時間, 起案+財務関係事務等 7,75h×2日+4h×8回=47.5時間(21年・22年は栄養士及び支払事務等の積算をしていなかったため今回修正し記載した。)						

## 3 事務事業の評価 (See) . . . . .

### (1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

#### ① 施策体系との整合性

結びついている。

理由:一般高齢者が健康を維持することにより,地域で安心して暮らす介護予防につながる。

#### ② 市の関与の妥当性

妥当である。

理由:ほかで行っている事業がないので,妥当である。

#### ③ 対象の妥当性

妥当である。

#### ④ 廃止・休止の影響

影響がある。

理由:区民を対象とした食育に関する事業がなくなる。

### (2) 有効性評価 (成果の向上余地)

アンケート結果から,今回初めて参加したと答えたひとは約34%であった。

参加者の約75%が食事づくりをしていると答えており,今後の生活改善を実施すると答えた人が88.8%であったことから事業は有効である。

### (3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

地区回覧や保健推進員の声がけなどで希望者を募り,開催にあたっては,玉山区内4地区で順次開催している。主食は,参加者持参としている。

(4) 効率性評価

実習の材料代等最小限の予算で実施している。主食は、参加者持参としている。従事者等最小限の人数で対応している。

**4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .**

(1) 改革改善の方向性

健康で自立した生活の基本は、食生活が基本となることを参加者を含めて家族にも啓発・普及を継続して行っていく。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

地域によっては、参加者が固定化しているが、継続して保健推進員や食生活改善推進員の協力を得ながら地域への啓発を図る。

**5 課長意見 . . . . .**

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

市民の健康増進を図るため、栄養教室を開催し高齢者及び家族が食生活を通してそれぞれが、健康づくりに取り組むよう支援している。

教室は、健康の源である食を通じた健康づくり事業であることから継続していく必要がある。